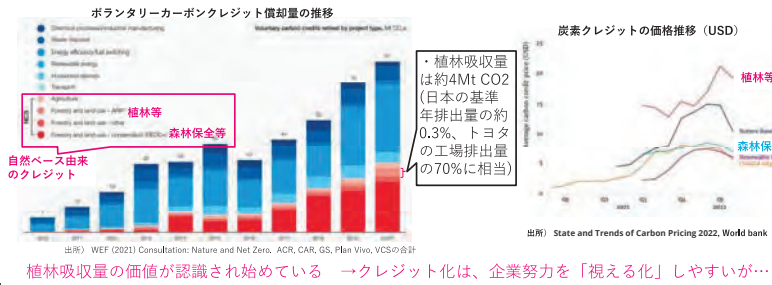


植林ポテンシャル：どういう植林ができるのか？

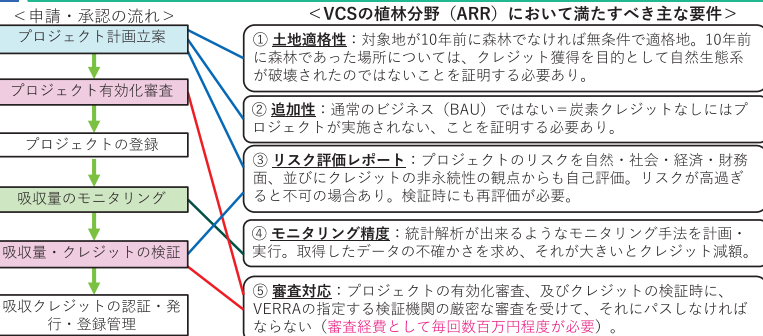
植林によるCO₂吸収量 → 炭素クレジットすればよい？

- クレジット化 = 流通可能(財産化) → 用途拡大 → **それにはクレジット発行機関の認証必須**
- クレジットの取引量は増加傾向、特に自然（森林）ベースのクレジットの割合増加
- 実際、クレジット目的の植林プロジェクト増加、+買取り価格も上昇



クレジット植林の申請の複雑さ (VCS※の例)

※: Verified Carbon Standard (ボランタリーカーボンクレジットプログラムの一つ)



本事業で参考になりえる炭素ストックの可視化手法

植林による炭素ストック増加の可視化→VCSの事例を参考

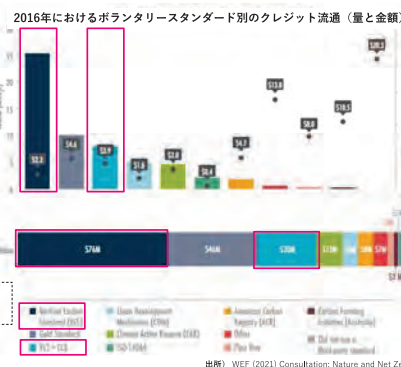


簡易な方法論を適用するVCS小規模植林プロジェクトに着目



炭素ストックの可視化にあたって

- ボランタリーカーボンクレジットプログラムでは、植林による炭素ストック推定が先行
- VCSは…
 - 一番発行量が多い
 - ICROA※が定める国際基準を満たす
 - CORSIA※※にも使用可能
 - 現行クレジットでは一番知名度が高い
 - VCSに認可済みの植林プロジェクトの炭素ストック推定方法に従えば…
 - クレジット化しなくても信頼性は担保可能



今年度はVCSの炭素ストック推定方法に着目

VCSの植林(ARR)では、小規模と大規模が存在

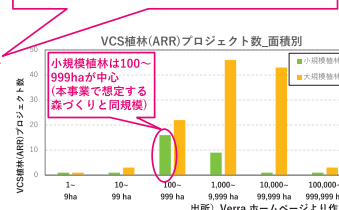
- 小規模植林の条件: 吸収量が16,000t CO₂/年以下 (面積の基準はない)
- 小規模植林は簡易 (Simplified) なCDM方法論 (全部で7つ) が使える

VCSの土地利用セクターのプロジェクト数 (Validation後に登録済みのみカウント対象、2023年3月7日時点)

| 土地利用セクター全体 | プロジェクト数 |
|--|------------------------|
| 総計(ARR) (=αでREDD、森林農業改善(IFM)、農地管理(ALM)も含む) | 448 |
| 小規模植林利用の方法論適用 | 162 |
| ①私有地又は政府所有地での植林 (2ha以上の植林区が1-100区以内) | 7 (うち3個はAR-AMS0007採用) |
| ②小規模農業家の所有農地で植林 (2ha未満の植林区が100区以上、アグロフォレストリ) | 22 (うち7個はAR-AMS0007採用) |
| 大規模植林利用の方法論適用 | 136 |
| REDD(α+αで森林農業改善(IFM)、農地管理(ALM)も含む) | 116 |
| 森林農業改善(IFMのみ) | 49 |
| それ以外(農地(ALM)・草地(ACoGS)・湿地(WRC)管理) | 118 |

出所) Verra ホームページより作成

・小規模植林の植林地は2つのタイプが存在
・近年(2017年以降)申請した小規模植林P (ID:1317以降)は10個で、全てAR-AMS0007採用 (Afforestation and reforestation project activities implemented on lands other than wetlands)



今年度は、近年申請のAR-AMS0007採用した10の小規模植林プロジェクトの炭素推定方法を分析